

今年もよろしくお預けします。とは言っても、3月に閉店しますが、

令和元年度 愛知教育大学附属岡崎中学校 読書だより

映画『町田くみ子』の世界が、
と、つづいてきた。閑水花子

新 モリモリ書店

第57話 R02.01.07(火)

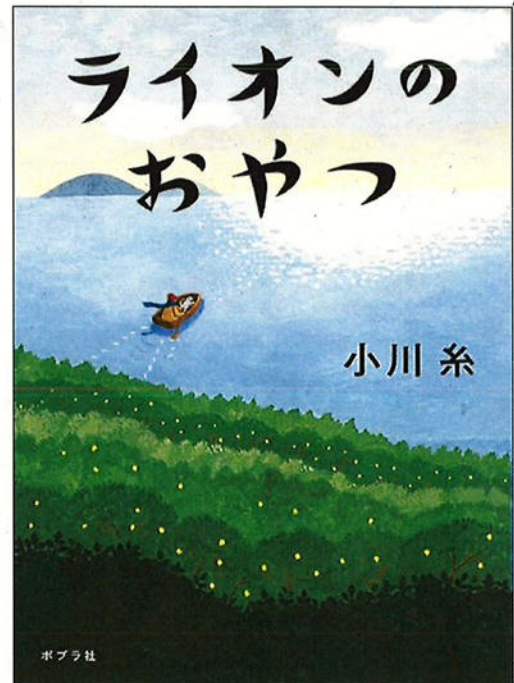
「人生の最後に食べたい
おやつは何ですか。」

★今回、紹介する本は、『ライオンのおやつ』（著/小川糸、出版/ポプラ社）です。

『食堂かたつむり』（映画化もされましたね）や『ツバキ文具店』などで有名な小川糸さんの最新小説。

舞台は、瀬戸内の島のホスピス。ここには、病気のため余命少ない人たちが最後の時間を穏やかに過ごすための場所。このホスピスでは、入居者がリクエストできる「おやつの時間」があり、それぞれが人生最後に食べたいおやつを頼んでいきますー。

主人公は、若くして余命を宣告された雫は、ホスピスの代表である「マドンナ」という女性や、さまざまな入居者、島の住民などに支えられながら、何気ない日常一つ一つの大切さに気づいていきます。「死とは怖いもの」という一般的な考え方を、ちょっと違う角度から見つめ、「命とは何か」「生きるとは何か」を問いかけてくれる作品です。新しい一年をすてきにスタートできる1冊です。ぜひどうぞ。



本渡り渡辺かみ、問わねます、映画化にまでなってますね。

『人は生きている限り、
変わるチャンスがある。
あれは、本当だった。』
(p.215)

『必死にな、て夜空を
探せば、私を見て
くれている星が
まっとうある。』
(p.95)

「死」というものの捉え方が、
変わらなくてもいい1冊です。

雪見だいふく、バツバツです。